

第7章 目標指標の設定と計画の進行管理

第7章 目標指標の設定と計画の進行管理

本章では、立地適正化計画策定後の適切な進行管理を行うため、目標及び効果指標の設定と進行管理における考え方を示します。

1. 目標指標設定の基本的な考え方

- ◆立地適正化計画では、計画の必要性や妥当性を客観的かつ定量的に提示するとともに、PDCAサイクル^{※56}を適切に機能させる観点から、本計画にて定めたまちづくり方針を実現するための「定量的な目標値」を設定するとともに、目標達成により「期待される効果を定量化」することが求められます。
- ◆本計画では、下記のとおり「定量的な目標値」の設定と、「期待される効果の定量化」を行い、計画の進行管理を行います。
- ◆なお、目標等設定年次については、本計画の目標年次である20年後の平成49年(2037年)における目標値を設定するとともに、施策推進において一定の効果が得られると想定される10年後の平成39年(2027年)においても中間目標値を設定し、実効性のある計画の進行・管理を行っていきます。

2. 定量的な目標と期待される効果

- ◆評価指標と数値目標は、居住誘導・都市機能誘導及び公共交通の維持・充実を図るための施策の展開により、まちづくりの方針(ターゲット)の達成状況を分析・評価するため、以下のとおり設定します。

まちづくりの方針1 良好な住環境の活用と創出による若年・子育て世代の定住促進

目標値1 都市機能誘導区域内^{※4}における子育て機能の増加

◇若年・子育て世代の定住促進に向けて、本計画において誘導施設^{※5}に位置付けた小規模保育施設が増加していることを確認する。

| 目標指標 | 現況値 H29(2017) | 中間目標値 H39(2027) | 目標値 H49(2037) |
|----------------------|------------------|--------------------|------------------|
| 都市機能誘導区域内における小規模保育施設 | 7施設 | 現況値以上 | 現況値以上 |

「子どもを生き育てるまち」として選ばれる都市を目指して

効果1-1 居住誘導区域^{※3}内における若年・子育て世代人口の維持・増加

◇良好な住環境の形成等により、居住誘導区域内の若年(0-14歳)・子育て世代(20-39歳)人口が維持または増加していることを確認する。

| 効果指標 | 現況値 H27(2015) | 中間目標値 H37(2025) | 目標値 H47(2035) |
|-----------------------|-------------------------------|--------------------|------------------|
| 居住誘導区域内における若年・子育て世代人口 | 若年世代:10,121人 子育て世代:19,178人 | 現況値以上 | 現況値以上 |

※国勢調査の値を使用するため、現況値及び目標値の年次を平成27年(2015年)・37年(2025年)及び47年(2035年)とする

まちづくりの方針2 拠点毎の役割に応じた都市機能誘導による利便性の向上

目標値2 誘導施設^{※5}の立地割合の増加

◇都市機能誘導区域^{※4}内(9箇所設定)において設定した誘導施設の立地割合が増加(維持を含む)していることを確認する。

| 目標指標 | 現況値 H29(2017) | 中間目標値 H39(2027) | 目標値 H49(2037) |
|--------------|------------------|--------------------|------------------|
| 誘導施設の立地割合 | | | |
| 坂戸駅周辺地区 | 80% (4/5) | 現況値以上 | 現況値以上 |
| 若葉駅周辺地区 | 100% (3/3) | 現況値の維持 | 現況値の維持 |
| 北坂戸駅周辺地区 | 100% (5/5) | 現況値の維持 | 現況値の維持 |
| 坂戸市役所周辺 | 100% (3/3) | 現況値の維持 | 現況値の維持 |
| 中心部にぎわい軸 | 100% (4/4) | 現況値の維持 | 現況値の維持 |
| 市民健康センター周辺 | 33% (1/3) | 現況値以上 | 現況値以上 |
| につきい花みず木地区 | 100% (2/2) | 現況値の維持 | 現況値の維持 |
| 西坂戸地区 | 100% (2/2) | 現況値の維持 | 現況値の維持 |
| 鶴舞地区(一本松駅周辺) | 0% (0/1) | 現況値以上 | 現況値以上 |

「子どもを生き育てるまち」として選ばれる都市を目指して

効果2-1 駅周辺における地価公示価格^{※57}の上昇率の増加・下降率の抑制

◇都市機能の誘導等により、まちの魅力や利便性の向上に伴い、駅周辺における地価公示価格の変動率(現況値と目標値を比較)が、市内における他のポイント平均値の変動率より上昇率が高い、もしくは下降率が低いことを確認する。

| 効果指標 | 現況値 H29(2017) | 中間目標値 H39(2027) | 目標値 H49(2037) |
|------------|------------------------------|--|--|
| 地価公示価格の変動率 | 駅周辺における 平均値 150,500円/㎡ | 市内他のポイント 平均値より増加率 が高い、もしくは 下降率が低い | 市内他のポイント 平均値より増加率 が高い、もしくは 下降率が低い |

※駅周辺:本計画において中心拠点に設定した坂戸駅・若葉駅・北坂戸駅周辺地区を対象に平均値を算出

「誰もが住み続けたい」と思えるまちを目指して

効果2-2 都市機能に関する市民満足度の向上

◇都市機能の誘導等により、都市機能に関する市民の満足度が増加していることを確認する。

| 効果指標 | 現況値 H26(2014) | 中間目標値 H36(2024) | 目標値 H46(2034) |
|---------------|------------------|--------------------|------------------|
| 都市機能に関する市民満足度 | 42.4% | 現況値以上 | 現況値以上 |

※平成26年(2014年)市民意識調査を直近のデータとするため、現況値及び目標値の年次を平成26年(2014年)・36年(2024年)
 ※満足度:買い物・金融機関など日常生活の便利さの充実に「満足している」・「やや満足している」と答えた市民の割合

まちづくりの方針3 郊外部等から拠点へのアクセス性を高める公共交通ネットワークの形成

目標値3 基幹的公共交通利用圏の人口カバー率の増加

◇沿線地域への居住誘導等により、基幹的公共交通利用圏の人口カバー率が増加していることを確認する。

| 目標指標 | 現況値 H27(2015) | 中間目標値 H37(2025) | 目標値 H47(2035) |
|-------------------|------------------|--------------------|------------------|
| 基幹的公共交通利用圏の人口カバー率 | 35.3% | 現況値以上 | 現況値以上 |

※国勢調査の値を使用するため、現況値及び目標値の年次を平成27年(2015年)・37年(2025年)及び47年(2035年)とする

路線バスのサービス水準の充実

効果3-1 バス利用分担率の増加

◇沿線地域への居住誘導や利用環境の充実等により、市内各駅(坂戸駅・若葉駅・北坂戸駅)へのバス利用分担率が増加していることを確認する。

| 効果指標 | 現況値 H20(2008) | 中間目標値 H30(2018) | 目標値 H40(2028) |
|---------------|------------------|--------------------|------------------|
| 市内各駅へのバス利用分担率 | | | |
| 坂戸駅 | 3.3% | 現況値以上 | 現況値以上 |
| 若葉駅 | 7.8% | 現況値以上 | 現況値以上 |
| 北坂戸駅 | 4.8% | 現況値以上 | 現況値以上 |

※平成20年(2008年)パーソントリップ調査を直近のデータとするため、現況値及び目標値の年次を平成20年(2008年)・30年(2018年)及び40年(2028年)とする

「誰もが住み続けたい」と思えるまちを目指して

効果3-2 公共交通に関する市民満足度の向上

◇公共交通の充実等により、公共交通に関する市民の満足度が増加していることを確認する。

| 効果指標 | 現況値 H26(2014) | 中間目標値 H36(2024) | 目標値 H46(2034) |
|---------------|------------------------------------|--------------------|------------------|
| 公共交通に関する市民満足度 | バス利用環境 15.3% 鉄道利用環境 34.7% | 現況値以上 | 現況値以上 |

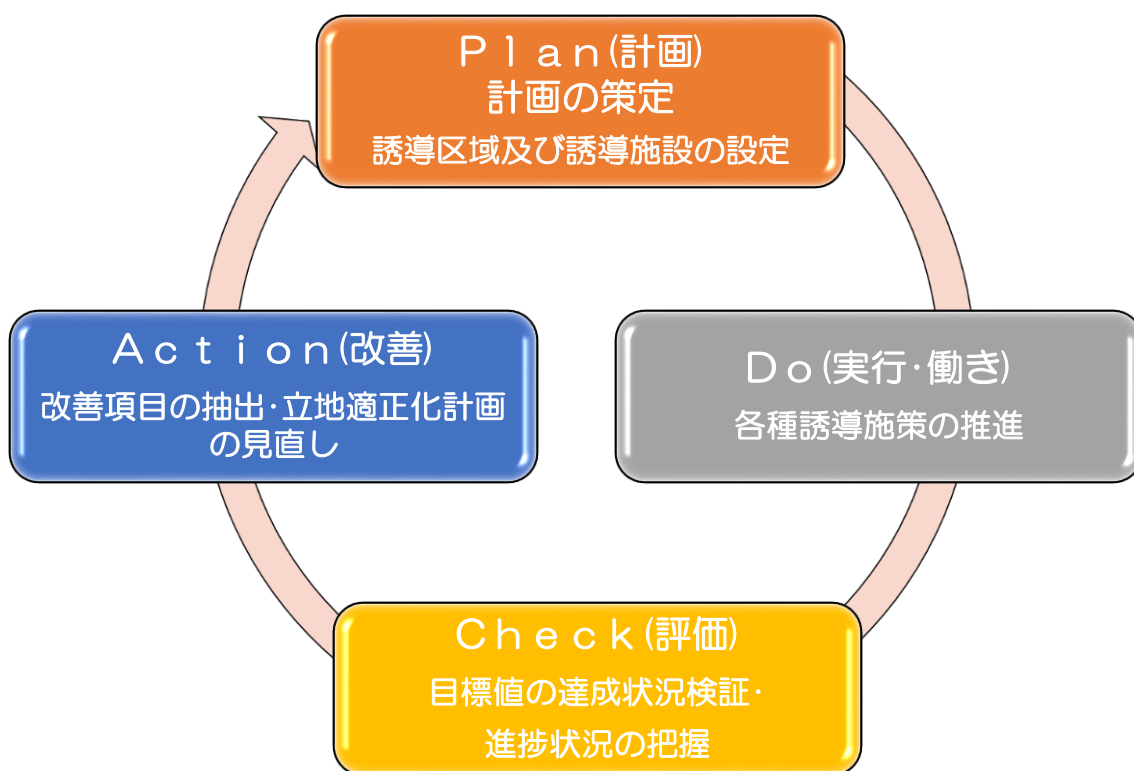
※平成26年(2014年)市民意識調査を直近のデータとするため、現況値及び目標値の年次を平成26年(2014年)・36年(2024年)及び46年(2034年)とする

※バス利用環境の整備・充実及び鉄道利用環境の整備・充実に「満足している」・「やや満足している」と答えた市民の割合

3. 計画の管理と見直しについて

- ◆本計画の計画期間内(平成30年度(2018年度)～平成49年度(2037年度))においては、施策の進行状況や社会的な変化も予想されるため、上位計画や関連計画の見直しとの整合性を図りつつ、おおむね5年毎に目標値の達成状況の評価を行い、計画の進捗状況や妥当性等を精査、検証していきます。
また、検証の結果、必要に応じて適宜計画の見直しを実施していきます。
- ◆前項で設定した目標を達成するため、下記のPDCAサイクル^{※56}の考え方にに基づき、適切な進捗管理を行います。

【PDCAサイクルによる適切な進捗管理】



目標の達成状況の確認

- 前項で設定した「定量的な目標値」・「期待される効果の定量化」の達成状況の確認
- 誘導施設^{※5}の立地状況、誘導施策^{※14}の進行状況等の評価・検証

